



生きものの“つぶやき”:

「ちょっと、見てないで助けて！！」

エッセイ:

2 時間。それは、写真のセミが羽化にかかった時間。地面を歩いていた幼虫は木を見つけ、着々と登っていく。その一歩はとても小さかったが、気が付いた時には私の身長を遥かに超えていた。ある一点の場所で動きを止めた幼虫は、それまでの疲れを感じさせないような力で背中中の殻を破りはじめた。そのとき、「助けて！」という声が聞こえた。よく見ると、セミが落ちそうになっている。前足で必死に自分の殻にしがみついているが、強い風に吹かれて、何度も何度も危険な状態を繰り返していた。手を差し伸べたい気持ちを必死に堪え、心の中で応援し続けた。無事に羽化を終えたとき、私だけでなくセミも安堵しているように見えた。

幼少期の私はセミの抜け殻を集めるのが大好きだった。また高校生の私は羽化を通して生命の力強さを学んだ。私と同じように、未来の子供たちが生きものから多くの経験や学びを得るには、私たちが環境を守らねばならない、そう強く思った。(400 字)

生きものの紹介:

アブラゼミ

日本全土、朝鮮半島、中国に生息。体長は 36～38mm で、成虫は 7 月～9 月に見られる。

オスはジージリジリジリと油が煮えたぎったような声で騒がしく鳴く。枯れ枝などに産み付けられた卵は、翌年の梅雨頃に孵化し、幼虫は土の中に潜る。土中で4～6年過ごし、その間に4回脱皮し、5歳で終齢幼虫になる。成長した幼虫は、地上へ出て草や木に登り羽化する。

撮影場所・日時:

東京都足立区 2024年8月5日

応募者の自己紹介:

1. 氏名：寺内 彩夏
2. 高校・学年：東京都立白鷗高等学校・2年
3. 所属：剣道部

審査員からのコメント:

エッセイからは作者の自然への畏敬の念が伝わってきます。
セミの成長の最も美しい瞬間を捉えていると思います。
貴重な一瞬を映像とつぶやきで捉えた良い作品です。